

「女性のがん検診」

20～30 才代の女性に一番多いがんが何か知っていますか？

答えは「子宮頸(ケイ)がん」です。

今回は子宮頸がんについてお話します。

子宮頸がんとはどんながん？

子宮の入り口にできるがんです。HPV(ヒトパピローマウイルス)の感染が原因です。

HPV(ヒトパピローマウイルス)とは？

ありふれたウイルスで 100 種類以上の仲間がいます。がんの原因となるのはそのうちの一部のウイルスで 発がん性ウイルスと言われています。発がん性ウイルスに感染してもみながんになるわけではありません。ごくわずかです。

女性の 80%はこの HPV(ヒトパピローマウイルス)に一生に一度は感染すると言われています。

症状は何？

前がん状態や子宮頸がんの初期はほとんど無症状です。進むと出血、おりものの異常、腹痛などの症状が出ます。

早い時期に発見できれば子宮を手術で取る必要はありません。妊娠、出産ができなくなることもないのです。

子宮頸がん検診の大切さがわかりますよね。

また子宮頸がんを予防するためのワクチンがあります。有効性が認められ海外でも多くの国で接種されています。

ただしワクチンを接種しても防げない HPV もありますので、検診を受けることが大切なのです。

さいごに

子宮頸がんは 20 才代からすべての年代の女性に起きるがんですが、多いのは 20 才～30 才代です。最初は症状がありません。

早期に発見するために検診を受けることがとても大切です。